

○普及上参考となる技術

[タイトル] クモヘリカメムシに対する有効薬剤及びその残効期間

[要約] スタークル剤、エクシード剤、キラップ剤及び Mr. ジョーカー剤は、いずれもクモヘリカメムシ成虫に対して高い殺虫効果を示す。それぞれ 7～9 日間の残効を有し、特にスタークル剤で長い。

[キーワード] クモヘリカメムシ、有効薬剤、殺虫効果、残効期間、斑点米

[担当場所・課] 農林水産総合技術センター・農業研究所・病理昆虫課

[連絡先] 電話 076-429-5249

[背景・ねらい]

近年、本県ではクモヘリカメムシが急速に分布域を拡大しており、斑点米被害が問題となっている。そこで、県内で斑点米カメムシ類防除に使用されている系統の異なる 4 薬剤について、クモヘリカメムシに対する殺虫効果及び残効期間を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 スタークル剤、エクシード剤、キラップ剤及び Mr. ジョーカー剤は、いずれもクモヘリカメムシ成虫に対して高い殺虫効果を示す（表 1）。
- 2 供試したいずれの薬剤も、無降雨条件で 7～9 日間の残効が認められ、特にスタークル剤で長い（図 1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本成果は、室内で行った薬剤検定試験及び雨除けハウス内で行ったポット試験（写真 1）から得られた結果である。
- 2 薬剤抵抗性の発達を防止するため、異なる系統の薬剤をローテーションで使用する。

[具体的データ]

表 1 クモヘリカメムシ成虫に対する各薬剤の殺虫効果 (2020 年、室内試験)

供試薬剤	希釈倍率	補正死虫率(%) ^{注1)}		系統	IRAC ^{注2)} コード
		24時間後	72時間後		
スタークル液剤10	1,000倍	100	100	ネオニコチノイド [※]	4A
エクシードフロアブル	2,000倍	83.0	96.5	スルホキシイミン	4C
キラップフロアブル	1,000倍	86.5	92.8	フェニルピラゾール	2B
Mr.ジョーカーEW	2,000倍	89.8	100	ピレスロイド [※]	3A

注 1) プラスチックケースに成虫 10 頭と稲穂を入れ、150L/10a 相当量の薬液を噴霧し、24、72 時間後に死虫（苦悶虫含む）を計数し、補正死虫率を算出

補正死虫率=100×（処理区の死虫率—無処理区の死虫率）/（100—無処理区の死虫率）

注 2) 殺虫剤抵抗性管理のための殺虫剤の作用機構分類

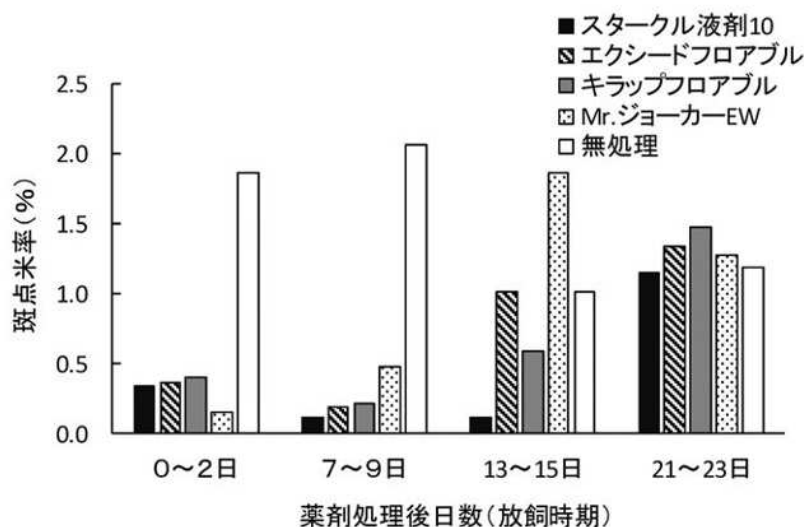


図 1 クモヘリカメムシ成虫に対する各薬剤の残効性 (2020 年、ポット試験)

写真 1 ポット試験の様子

注) 品種：てんたかく 81 (出穂期 7/26)

ポット植えの出穂 5 日後のイネにハンドスプレーで各薬剤を 1 回処理（希釈倍率は表 1 と同様、150L/10a 相当量）。薬剤処理 0、7、13、21 日後に成虫 4 頭を放飼し、2 日後に回収。成熟期に粗玄米の斑点米粒数を調査

[その他]

研究課題名：難防除病害虫対策試験

予算区分：県単

研究期間：2020 年度 (2018～2022 年度)

研究担当者：黒田貴仁、向井環、青木由美

発表論文等：第 65 回応用動物昆虫学会（口頭）